

「愛」があるから

(原文)

進藤 璃子 (13 歳)

東京都

学習院女子中等科

気が付いたら、真っ白な天井が目の前にあった。横の機械からのびるチューブは、なぜか自分の体につながれていた。隣にはいつも一緒に寝ていたぬいぐるみ。ランドセルについていたはずのお守りまである。手首に付けられていた輪っかを見て、何かが起こったことを悟った。目の前で行き交っている名札をさげた女の人の一人が私に声をかけた。「もうすぐお父さんとお母さんがいらっしゃるからね、よかったね。」両親が最初に私に向けた顔には、驚きと感動と喜びと悲しみがにじみ出ている。でも、何が起きたのか、何が起きているのか分からない。

今から約 5 年前、交通事故にあった私が、一週間の昏睡状態から目覚めたときのことだ。頭部に重傷を負い、心臓が止まった時間もあったそうだ。そんな私が今、幸せに生きているのは、私を支えてくれるすべての人々のおかげだと感じている。この事故による一連の経験から学んだことを世界に、皆に伝えたい。そう思って私は筆をとった。

私が 5 年前に学んだこと、それは「誰もが愛にいかされている」ということだ。ありきたりな言葉かもしれないが、これは人間だけでなく、全ての動物や植物の命にあてはまる事実だと思う。私の意識が戻った時、誰よりも喜び、私が入院していた 3 カ月近くの間、ほぼ毎日のように会いに来てくれた両親。皆で手紙を書いてくれた当時の同級生。パズルや本など、お見舞いの品を下さった習い事の先生。少し離れたところに住む親戚。直接お会いしたことのない方々……。本当に沢山のお心遣いを賜った。有名人でも何でもない自分がこんなにも沢山の人々に支えられていたことを知り、本当に驚いた。そして、自分を愛してくれる人がいる、自分の存在で幸せになってくれる人がいる、そう思うだけで自分の生きがいを感じられることに気付いた。同時に自分や他の人間や動物の命が在り続けられるのは、他者からの「愛」があるからなのだ、私は学んだのだった。

近頃、有名人を含む人々が自らの命をたってしまう事件が増えている。そういった人々の自殺原因として、最近よく挙げられているのは、SNS 等での「誹謗中傷」。何故それをきっかけに、命を絶ってしまう人がいるのだろうか。それはきっと、浴びせられた心ない言葉によって、自分は誰からも必要とされていない、愛されていない、と生きがいを感じられなくなってしまったからだと思う。つまり、言葉は人の生きがいを奪い、殺してしまうほどの威力を持っているということだ。ところが、逆に考えれば、極端な例だが、言葉の力を使えば、世界中全ての人に生きがいや幸せを与えることもできるのでは

ないだろうか。

私は友達にプレゼントをあげたりするとき、よく手紙をそえている。このような手紙で私が決まってよく入れる言葉がある。

「大好き。」漢字を使っても、ひらがなで書いても、たった数文字の言葉。私がこの言葉を使っている理由は、相手に「あなたのことを愛している人がいるよ」ということを伝えたいからだ。愛があるから命は存在できる。私たちが命のためにできること、それは、一人一人を愛し、できればそれを「言葉」にすることだと思う。先ほども述べたが、言葉には「力」があるからだ。誰もがこれができるようになれば、世界はきっと素晴らしいものになる。全ての命が平等に大切に扱われる。誰もが幸せに生きられる。

私が「大好き」なこの世界がそんなふうになる日が訪れることを、心から願っている。